

支え愛マップづくりの取組

①支え愛マップとは・・・？

○災害時に誰かの手助け・声かけを必要とする人(※1)と、その支援者(※2)の情報・避難所及び避難経路を盛り込んだ地図のことです。

○少子高齢化や過疎化が進展し、地域の絆が薄れている中、「支え愛マップ」づくりは地域のことを住民で話し合い、「**日ごろからのつながり、支え合い**」を考える機会につながります。

また、支え愛マップは、平常時の見守り活動のほか、災害時の避難支援を円滑に進めるツールになります！

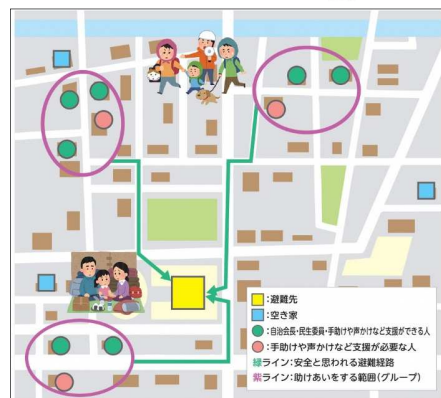
(※1) 独居、寝たきり及び認知症等の高齢者、障がい者など
(※2) 民生委員や声かけができる人



<鳥取県内の支え愛マップの作成状況>

年度	H29	R1	R3	R5	R7
累計(地区)	520	794	898	976	1,063
作成率(%)	17.9	27.3	30.9	33.6	36.8

※R7県全体地区数 2,889地区



②支え愛マップのメリット

①支援が必要な人、支援ができる人を見つけやすくなる

支援が必要な人（高齢者、障がい者、子育て世帯、孤立している人など）や地域で支援ができる人の把握に繋がる

②災害時の支援に役立つ

支援が必要な人に対する安否確認や避難行動支援に繋がる

③地域のつながりが強化される

住民同士のマップづくりを通じて、普段交流のない人が顔見知りになる

④地域課題の発見や行政等との連携が進む

「この地域は支援できる人が少ない」、「ここに高齢者が集中している」など、地域の現状把握に繋がり、住民だけでは解決が難しい課題を行政や民生委員などに繋げやすくなる



支え愛マップの
詳細はこちら→



鳥取県は支え愛マップづくりを進めています！

③作成の流れ

①準備するもの

ハザードマップ等地域の危険性が分かるもの、大きな白地図、ビニールシート（透明なごみ袋等でも可）、シール、油性ペン、セロハンテープ等

②白地図等の設置

白地図の上にビニールシートを置き、セロハンテープ等で貼り付ける

③設定の確認

マップづくりにおいて発生したと仮定する災害の内容、時期、曜日、時間帯等

④シール貼り

空き家、避難所、手助け・声かけが必要な者の家、支援者の家にそれぞれの区分毎に色を決め、シールを貼る

⑤危険な箇所の確認

ハザードマップ等地域の危険性が分かるものを参考に、土砂崩れ、浸水等、危険性に応じて色を決め、危険な箇所を油性ペンで記入する

⑥避難グループの記入

要支援者を中心に、一緒に避難するグループを油性ペンで囲む

⑦避難経路の記入

危険な箇所を踏まえながら、一緒に避難するグループ毎に避難経路を記入する

④作成事例

■迅速な避難・地域活動を実施 ※H24作成

くらしし しもたなかちょう ちく

倉吉市下田中町地区

- ・日中家族が不在の要支援者の情報を書き込んだ支え愛マップを作成し、事前に地域に共有。



- ・県中部地震発災時（H28.10月）は、作成していたマップとその情報をもとに、要支援者の安否確認や避難誘導をおこない、迅速な避難に繋がりました。



（作成した支え愛マップの前で）

■災害をきっかけに安心して暮らせる地域へ ※R7作成

とっとりし さじちょう よど ちく

鳥取市佐治町余戸地区

- ・R5の豪雨災害後、住民が集まってマップ作成に着手。少子高齢化が進む中山間地域で、災害時に支援が必要な人、支援ができる人、どのように避難するかなど、住民同士で話し合いを実施。
- ・日頃からの住民のつながりや、支え愛の大切さを再認識できたほか、災害時の避難支援体制づくりに繋がっています。



他の地区のマップ作成についてはこちら→
（佐治町総合福祉センター／Instagram）